

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

速報

ゴールデンウィーク期間中の受け入れの報告

11名の患者様の受け入れについてお問い合わせを頂き、うち、8名の患者様を受け入れさせて頂きました。ありがとうございました。夏期休暇中の受け入れも行いますので、随時お問い合わせ下さい。よろしくお願いいたします。(中野・中嶋)

“老健やましろ”と“地域包括ケア病棟彩り”を学ぶ会の報告

～ With A Little Help From My Friends ～

4月15日(月)、『“老健やましろ”と地域包括ケア病棟“彩り”を学ぶ会』を開催し、地域から約20名の方々が参加して下さいました。ありがとうございました。



第一部では、老健やましろの桑原Nsより、老健やましろでの取り組みについて、写真を交えて説明がありました。桑原Nsは長年、病院の病棟Nsとして勤務していましたが、人事異動により昨年3月より老健やましろにて勤務しています。老健やましろで勤務してから“気付いたこと”についての説明もあり、研修会に参加していた院内職員にとっても自身の“気付き”につながったのではないのでしょうか。続いて、地域医療連携室の中嶋ソーシャルワーカーによる事例紹介です(在宅から地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れ、その後に老健やましろを経由して自宅に戻られた事例です)。地域包括ケアシステム構築に向け、当組合としてできることをしていきたいという思いを強くしました。事例紹介の後は質疑応答では、地域包括ケア病棟の

第一部では、老健やましろの桑原Nsより、老健やましろでの取り組みについて、写真を交えて説明がありました。桑原Nsは長年、病院の病棟Nsとして勤務していましたが、人事異動により昨年3月より老健やましろにて勤務しています。老健やましろで勤務してから“気付いたこと”についての説明もあり、研修会に参加していた院内職員にとっても自身の“気付き”につながったのではないのでしょうか。続いて、地域医療連携室の中嶋ソーシャルワーカーによる事例紹介です(在宅から地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れ、その後に老健やましろを経由して自宅に戻られた事例です)。地域包括ケアシステム構築に向け、当組合としてできることをしていきたいという思いを強くしました。事例紹介の後は質疑応答では、地域包括ケア病棟の

入院費用と老健やましろのショートステイの費用の違いについての質問があり、入院費用(入所費用)についての広報が必要だと感じました。第一部の最後は、4月から地域包括ケア病棟の看護



師長となった吉崎Nsから「地域からの受け入れを促進していきたい」との心強い言葉がありました。

第二部は、場所を老健やましろに移動し、老健やましろの見学です。はじめて老健やましろを見学される方も多く、三村管理部長の説明に熱心に耳を傾けて下さいました。「百聞は一見にしかず」の通り、実際に見て頂いたことで感じ取って頂くことも多かったのではないかと思います。

研修会終了後に頂戴したアンケート結果を考察し、今後の地域包括ケア病棟“彩り”と老健やましろの運営に活かしていきたいと思っています。地域の皆様のご期待に応えられるよう、かわるスタッフが一丸となり、頑張っています。今後の“彩り”と老健やましろにご期待下さい。(地域医療連携室 室長 南出 弦)





地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第33回）

～ 老健やましろショートステイ利用中の方を受け入れしました ～

老健やましろのショートステイを定期的に利用されていました。今回、諸事情によりショートステイの利用を延期せざるを得ませんでした。介護保険の利用上限額を上回ってしまうため、ショートステイの利用延長はできず、老健やましろショートステイ担当者、担当ケアマネジャーと相談し、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れさせて頂きました。

事前にショートステイ先の老健やましろに出向き、ADLなどの確認を行いました。見守りで杖歩行が可能な患者さんでしたので、“彩り”入院中にADLが低下しないよう、病棟看護師に申し送りました。また、患者さんご本人にも、できるだけ動いて頂くよう促しました。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その③

救急受診されたが、急性期治療の必要のない患者さんの受け入れをお願いしたい。

（他病院 ソーシャルワーカー）

“彩り”では、経過観察目的の患者さんを可能な限り受け入れさせて頂いていますので、ご連絡ください。圧迫骨折などの場合は、事前に整形外科の先生の見立てがあると、患者さんがこちらに来られてからの治療方針が立てやすくなりますので、整形外科の先生の診察を受けて頂いてからご紹介頂けるとありがたく思います。（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

地域医療連携室より

～ ボヘミアンラブソディ ～

観られた方も多いのではないのでしょうか、映画「ボヘミアンラブソディ」。特に最後のライブシーンは鳥肌モノ、感動しました。何回観られましたか？私は1回しか観ていないのですが、私の周りには、2回観た人や1回観て「もう1回観たい」と言っている後輩がいました。同じ内容であっても、感動したり良いと思ったら、やっぱりもう1回体験したくなるものですね。

さて、地域包括ケア病棟“彩り”です。“彩り”には、定期的に利用して頂いている患者さんが数名おられます。ご家族の負担軽減であったり、リハビリ希望であったり、目的は様々ですが、「また利用したい」と思って定期的に利用して頂き、結果的として住み慣れたご自宅での生活が継続するお手伝いができていると思うと嬉しく思います。

“彩り”では、入院患者さんの入院生活質向上のため、昼食前にはリハビリ科セラピストによる集団体操や病棟看護師によるレクリエーションを実施しています（今秋、病棟では秋祭りを企画しているようです）。また、週1回程度、傾聴ボランティアの方々にもご活動頂き、まさに“彩り”を添えて頂いています。このような様々な取り組みなどを通じて、これからも多くの患者さんやご家族、地域の専門職の皆様へ、「利用して良かった」「もう一度利用したい」と思って頂ける病棟運営を目指したいと思っています。ご希望やご要望などがありましたらお寄せ下さい。

（地域医療連携室 室長 南出 弦）